

須賀川市立義務教育学校「稲田学園」学園だより

とう oun
稲雲

令和7年度 第6号

令和7年7月1日発行

発行者：校長 田中 朗裕



○堂々と戦う姿は立派でした!!

令和7年度の県中地区中体連が、6月17日と18日に実施されました。本校の生徒は、軟式野球、卓球、バドミントン、剣道の4競技に出場し、バドミントン部が団体第3位、個人ダブルスの2つのペアが第3位、卓球部の個人ダブルスが第2位となり、県大会の出場権を獲得しました。これまで日々の練習で積み重ねてきた努力と仲間を信じて、最後まで必死に戦い抜く姿は、見ていて胸が熱くなるものでした。選手のみなさん、本当にお疲れ様でした。

多くの保護者の皆様に会場まで足を運んでいただき、大きな声援をいただいたことに感謝申し上げます。大会の結果をお知らせします。

軟式野球 2回戦 対 郡山二中 惜敗

卓球 男子団体 1回戦 対 郡山二中 惜敗

男子シングルス 1回戦 対 船引中 惜敗

男子ダブルス 第2位 県大会出場

1回戦 対 郡山二中 勝利、2回戦 対 郡山一中 勝利

3回戦 対 船引中 勝利、準決勝 対 須賀川三中 勝利

決勝 対 須賀川三中 惜敗

女子シングルス (須賀川スポ少) 1回戦 対 熱海中 惜敗

バドミントン 団体 第3位 県大会出場

1回戦 対 郡山二中 勝利、準決勝 対 郡山一中 惜敗

代表決定戦 対 西田学園 勝利

ダブルス 2ペアが第3位 県大会出場

1回戦 対 郡山二中 勝利、対 西田学園 勝利

準決勝 対 郡山一中 惜敗、対 郡山ジュニア 惜敗

剣道 (須連少) 個人戦 2回戦 対 郡山三中 勝利、3回戦 対 郡山一中 惜敗



○「ふるさと納税」に関する授業を実施中です!

6月13日、19日、26日に「小学生考案!ふるさと魅力UP 返礼品」の授業が実施されました。授業のねらいは①「ふるさと納税の仕組みを知る」②「ふるさと納税の返礼品に対してアイデアを出す」③「魅力的な返礼品を作って、実際に寄附を集める」の3つです。この授業は、6年生が5年生の時に、ふるさと納税についてのアイデアを市に提案したことで始まり、残り2回の授業を予定しています。6年生がどんな返礼品を考案するのか楽しみです。



○大切な命を守る「いざ」という時のために

6月20日（金）に「引渡し訓練」と「救急救命法講習会」を実施しました。「引渡し訓練」は、地震や大雨等の自然災害が発生した時などに、児童生徒を安全に、そして確実に保護者の皆様に引き渡すための訓練です。保護者の皆様のご協力により、スムーズに訓練を終了することができました。そして、「救急救命法講習会」は、教職員を対象に、日本赤十字社から講師の先生をお招きして、心肺蘇生やAEDの使い方についての研修を行いました。どちらも、大切な命を守ることを目的として、できればない方がいい「いざ」という時のために実施しました。



○「歯科衛生講演会」を実施しました。

6月12日（木）の6校時目に、学校歯科医の先生をお迎えして、「歯科衛生講演会」を実施しました。講演会に先立ち、「口腔状態が優良な生徒」として、38名が表彰されました。講演会では、「令和7年度の歯科検診の結果から」、「フッ化物とむし歯予防」について講演をいただきました。生徒からは、「今後、自分の口腔状態に関心を持ち、むし歯の予防をしていきたい。」という感想が聞かれました。



○今年度もよろしく願います

6月12日（木）の午後6時から、第1回の地域運営協議会と学校評議員会を開催しました。地域運営協議会委員12名の皆様と学校評議員5名の皆様に委嘱状を交付させていただき、その後、今年度の本校の経営方針についての説明をさせていただきました。会の最後には、委員の皆様から児童生徒の安全確保について、貴重なご意見をいただくこともできました。委員の皆様には、平日のお忙しい時間にご来校いただき、誠にありがとうございました。



随 想

「働き方改革」と「やりがい改革」～教職員の思いがあらわれる学校～

現在、学校の教職員には「働き方改革」が求められています。全国的な教員不足が叫ばれ、その原因として、長時間労働、激務、給与の低さなども影響しているとされており、「学校の先生」という職業は、「ブラック」だと言われて久しいのも事実です。

しかし、労働時間が短くなり、仕事の量が減り、給与が上がれば、先生という仕事の魅力も上がるのだろうか？と思うのです。私たちが「学校で働くこと」を選択したとき、「子どもと一緒に勉強したり、遊んだり、いろいろなことをしてみたい。」「子どもが一生懸命にがんばる姿を応援したい。」「子どもが夢を叶えるお手伝いをしたい。」という思いをもっていた人が圧倒的に多いと思うのです。

そこで、本校では「働き方改革」に「やりがい改革」の視点を取り入れようと話しています。いわゆる自分たちの「初心」や「原点」に立ち返って、「子どものためにこんなことをしてあげたい。」「もっといい授業がしたい。」「子どもが成長したり、夢をもてるようになったりする教育がしたい。」こんな思いを、管理職の「早く帰りましょう。」や「行事や業務の量を減らしましょう。」という言葉で邪魔したくないと思うのです。教職員がたとえ忙しくても、「やりがい」を感じながら働いたら、そしてその姿を周囲に見せられたら、私たちの「仕事の魅力」もアップするのではと思っています。